

- 北野信彦、狭川真一、窪寺茂「元興寺五重小塔の外観塗装材料に関する調査」  
 犬塚将英、龍泉寺由佳、石崎武志「石水博物館千歳文庫内の温湿度解析」  
 谷口陽子、ジョイ マズレック「パーミヤーン仏教壁画の材質分析 (3) —ガスクロマトグラフィー／質量分析法を使用した有機物の分析：B(d)窟—」  
 高林弘実、小瀬戸恵美、于宗仁、范宇権「敦煌莫高窟第285窟壁画に使用された彩色材料の非接触分析」  
 宇野朋子、森井順之、薛平、張国彬、侯文芳  
 「敦煌莫高窟第53窟の窟内環境—温湿度実測調査と気流解析—」  
 朽津信明「カンボジア・タ・ネイ遺跡における蘚苔類の繁茂と砂岩の風化」  
 木川りか、杉山純多、高鳥浩介、間渕創、佐野千絵、三浦定俊  
 「高松塚古墳発掘・解体作業に伴う生物調査の概要について」  
 木川りか、間渕創、佐野千絵、三浦定俊「キトラ古墳の微生物等の状況報告(2007)」  
 佐野千絵、犬塚将英、間渕創、木川りか、吉田直人、森井順之、加藤雅人、降幡順子、石崎武志、三浦定俊「キトラ古墳保護覆屋内の環境について (3) —カビ点検報告記録の解析—」  
 犬塚将英「ガス電子増幅フォイルを用いた文化財のX線透過撮影のための検出器の開発Ⅱ」  
 松島朝秀、三浦定俊「文化財の透過X線撮影における蛍光増感スクリーンの特性」  
 吉田直人  
 「ファイバー送受光型分光光度計による平面文化財資料の反射スペクトル測定における誤差に関する考察」  
 間渕創、佐野千絵「コンクリート壁面における付着真菌の累積挙動」  
 犬塚将英、新田建史、石崎武志「静岡県立美術館における温熱環境の測定Ⅱ」  
 吉田直人、佐野千絵「文化財保存施設におけるジクロロボス蒸散殺虫剤の使用について」  
 鈴木雅文、山路康弘、楠京子、森井順之、川野邊渉「重要文化財八窓庵中柱の修復」  
 梶井基充、谷口陽子、大竹秀実  
 「パーミヤーン仏教壁画の保存修復 (3) —I 窟およびN(a)窟における保存修復」  
 豊島久乃、清水真一、青木繁夫、田代亜紀子  
 「我が国の文化遺産国際協力事業の動向と課題—財源別に整理した事業実績の集計結果より—」  
 吉田直人、佐野千絵、石崎武志「展示公開施設の館内環境調査報告—平成18年度—」  
 吉田直人、佐野千絵、石崎武志、三浦定俊「25年目を迎える保存担当学芸員研修」

## 第30回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書 (⑥無05-07-1/1)

2007年2月14日～16日に当研究所セミナー室で開催したシンポジウムの各発表及び討論をまとめ、日本語版を刊行した。なお英語版はホームページ上で公開する。

### 「第30回文化財の保存修復に関する国際研究集会 無形文化遺産の保護 —国際的協力と日本の役割—」

鈴木規夫「刊行に当たって」

基調講演

1. 宮田繁幸 (東京文化財研究所)

「日本の無形文化遺産保護と無形文化遺産保護条約」

2. 愛川紀子 (ユネスコ)「ユネスコ無形文化遺産保護条約

—その採択 (2003) から第1回政府間委員会開催 (2006.11) まで」

セッションⅠ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅰ

白庚勝 (中国・中国民間文芸家協会)「中国の無形文化遺産保護の国際的重要性」



⑥刊行物 Area15,16

- 飯島満（東京文化財研究所）「日本の無形文化遺産—古典芸能の伝承と将来」  
セッションⅡ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅱ  
イム・ドンヒ（韓国・東国大学）「無形文化遺産の保護と人間文化財：経験と挑戦」  
佐々木正直（文化庁伝統文化課）  
「日本における『無形文化財』の保護の現状と課題—工芸技術を中心として—」  
ガウラ・マンチャチャリタディプラ（インドネシア・文化専門家）  
「インドネシアの無形文化遺産の保護：システム、計画、活動と問題」  
セッションⅢ：各国の無形文化遺産保護の現状と課題Ⅲ  
菊池健策（文化庁伝統文化課）「日本の無形民俗文化財の保護」  
グウェン・キム・ズン（ベトナム・文化情報省文化遺産部）  
「近年のベトナムにおける無形文化遺産の保護とコミュニティの関与」  
セッションⅣ：国際的協力における日本の経験  
福岡正太（国立民族学博物館）「伝統芸能の保護と映像記録の役割」  
大貫美佐子（財団法人ユネスコ・アジア文化センター）  
「無形文化遺産とコミュニティのキャパシティビルディング」  
俵木悟（東京文化財研究所）「東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み」  
討論  
シンポジウムプログラム  
発表者一覧  
組織委員会メンバー  
無形文化遺産条約全文

『美術研究作品資料 第5冊 黒田清輝《湖畔》』（①美01の一環として実施）

企画情報部のプロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の報告書。今年度は黒田清輝《湖畔》（東京国立博物館蔵）の調査研究をまとめ、『美術研究作品資料』第5冊とした。版型はA4判変形。《湖畔》図版14頁。テキスト92頁。その構成は以下の通り。

- 《湖畔》図版 城野誠治、鳥光美佳子撮影・画像形成（紫外線蛍光画像を除く）  
全図  
部分図（原寸大） 顔・湖面と山並み・団扇と手・左手  
額装 表・裏面  
斜光線画像・側光線画像・紫外線蛍光画像・反射近赤外線画像  
芦ノ湖湖面実写  
展示風景

テキスト

- 田中淳「序論—黒田清輝《湖畔》を語るために」  
荒屋鋪透「1900年パリ万国博覧会と黒田清輝の《湖畔》」  
山梨絵美子「黒田清輝《湖畔》のモデルをめぐる」  
鈴木康弘「《湖畔》誕生の頃の箱根」  
植野健造「黒田清輝《湖畔》の波紋」  
金子一夫「鑑賞教材として採用される黒田清輝作品の変遷—《鉄砲百合》から《読書》、さらに《湖畔》へ」

